

論文審査の結果の要旨

| | | | |
|--|----------------|-------|-------|
| 報告番号 | 博(医歯薬)甲第 758 号 | 氏名 | 矢野 雄大 |
| 学位審査委員 | 主査 | 沖田 実 | |
| | 副査 | 高村 昇 | |
| | 副査 | 澤井 照光 | |
| 論文審査の結果の要旨 | | | |
| <p>1 研究目的の評価 本研究は、呼吸機能の中でも高齢者の健康に直接的に影響するとされる1秒量に着目し、公害認定患者におけるその年間低下量に影響する因子を明らかにしようとしたもので、目的は十分に妥当である。</p> | | | |
| <p>2 研究手法に関する評価 対象は倉敷市水島地区で公害認定を受け、健康調査の受診率や年齢区分といった対象者選択基準を満たした730名であり、サンプルサイズとしては十分である。研究デザインは後方視的観察研究であり、2000年から2009年間の1秒量のデータの回帰分析から年間低下量を算出している。そして、この年間低下量と年齢や性別などの一般情報ならびに喫煙習慣、呼吸器症状、医学的管理区分の関連性を二変量解析とステップワイズ重回帰分析によって検討しており、研究手法としても妥当である。</p> | | | |
| <p>3 解析・考察の評価 上記手法で解析した結果、公害認定患者の1秒量の年間低下量は健常者の加齢に伴う年間低下量と大差なく、これに影響する因子としては、性別、喫煙習慣、医学的管理区分が抽出されている。そして、これらの因子の中でも喫煙習慣の影響が最も大きいことも明らかになっている。つまり、上記の結果は、大気汚染が問題となっている地域において今後、住民の健康を維持していく上では環境改善に加え、喫煙に対する方策が重要であることを示唆しており、公衆衛生上の取り組みに大いに寄与することが期待される。</p> | | | |
| <p>以上のように本論文は呼吸器分野の研究に貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士（医学）の学位に値するものと判断した。</p> | | | |